交通安全対策

追い越し禁止車線に変更を
警察署へ要望書を提出する

水野（みずの） 佐知（さち） 議員

問 交通事故の多発や頻回の危険な体験により、住民の不安が大きい国道56号、伊与喜から不破原間の追い越し禁止車線への変更について問う。

答 **青木 地域住民課長**

令和6年度の地区要望の希望順位1番となっている。この要望を受け、町は、中村警察署長に対し、地元からの強い要望であることを伝え、追い越し禁止車線への変更の要望書を提出する。

問 上不破原橋、上不破原上りの高齢者等に配慮したバス停留所の移動について問う。

答 **渡辺 企画調整室長**

当停留所は、交通量の多い国道56号沿いにあり、また、駐車スペースが反対側の下り車線にしかないことから、バスに乗り降りする際は、道路を横断しなければならず、特に高齢者等にとっては危ない場面もある。

まずはバス事業者、国交省、中村警察署と協議の場を持ちたい。

地区の利用状況を踏まえ、関係機関と、現場確認などを行った上で、今後の対応について検討していく。

国道56号沿線の下り側に設置の上不破原バス停留所（左側）付近から伊与喜方向を望む（令和6年4月）

防災対策

災害弱者に安心の避難所を
訓練等を通じ取組み進める

問 女性や子ども、高齢者の困りごとを減らす避難所づくりには、避難所の管理責任者や意思決定の場に、女性や多様な人々が関わることが重要だ。

黒潮町男女共同参画計画の中では、自然災害が発生したときには、高齢者をはじめ、障がい者女性や子ども、病人など、災害弱者になりやすい人は、避難活動や被災後の生活などにより多くの困難を抱える。防災現場には女性等の目線が必要とあるが、女性や障がい者の配置について問う。

答 **村越 情報防災課長**

避難所の運営については、施設ごとに避難所運営マニュアルを作成し、多様な視点が運営に反映されるよう、女性や障がい者等にも運営メンバーに入ってもらうとある。

女性等も避難所運営に関わり、多様な人々の意見が反映されるように、今後も訓練等を通じて、取り組みを進めていきたい。

【その他の質問】
・公園の管理について